

令和3年度事業報告

令和3年4月1日～令和4年3月31日

特定非営利活動法人NPOいきがいサロンオーリーブ

| デイサービスオーリーブたかの台 | | | | ホームヘルパーオーリーブ (介護保険) | | | ホームヘルパーオーリーブ (障害者総合支援法) | | | NPO法人オーリーブ介護事業全体 | | | こまくさの会(ボランティア事業) | | | | |
|-----------------|--|------------|---------|--|------------|--------|---|---------|--------|---|------------|--------|--|----------------|----|-----------------|---------|
| 月 | 令和3年度目標 | 令和3年度実績 | 達成率 | 令和3年度目標 | 令和3年度実績 | 達成率 | 令和3年度目標 | 令和3年度実績 | 達成率 | 令和3年度目標 | 令和3年度実績 | 達成率 | 月 | こまくさの事業(令和3年度) | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | 事業名 | 目標 | 備考欄 | 令和3年度実績 |
| 4月 | 3,000,000 | 3,014,822 | 100.5% | 2,000,000 | 2,081,269 | 104.1% | 30,000 | 26,563 | 88.5% | 5,030,000 | 5,122,654 | 101.8% | 4月 | | | | |
| 5月 | 3,100,000 | 2,913,463 | 94.0% | 2,000,000 | 1,980,992 | 99.0% | 30,000 | 26,563 | 88.5% | 5,130,000 | 4,921,018 | 95.9% | 5月 | 1. こまくさの会(サロン) | 9回 | 新型コロナウイルスにより変更有 | 6回 |
| 6月 | 3,200,000 | 2,836,676 | 88.6% | 2,100,000 | 2,145,368 | 102.2% | 30,000 | 38,792 | 129.3% | 5,330,000 | 5,020,836 | 94.2% | 6月 | 2. こまくさの会(家族会) | 9回 | 新型コロナウイルスにより変更有 | 4回 |
| 7月 | 3,200,000 | 3,083,926 | 96.4% | 2,200,000 | 2,373,748 | 107.9% | 30,000 | 77,445 | 258.2% | 5,430,000 | 5,535,119 | 101.9% | 7月 | 3. ちょっとしたお手伝い | 9回 | 新型コロナウイルスにより変更有 | 5回 |
| 8月 | 3,300,000 | 2,835,452 | 85.9% | 2,100,000 | 2,219,158 | 105.7% | 40,000 | 72,743 | 181.9% | 5,440,000 | 5,127,353 | 94.3% | 8月 | 4. 災害支援 | 回 | 災害あるとき | |
| 9月 | 3,600,000 | 2,937,381 | 81.6% | 2,200,000 | 2,046,657 | 93.0% | 40,000 | 52,995 | 132.5% | 5,840,000 | 5,037,033 | 86.3% | 9月 | 5. カラオケ | 0回 | 新型コロナウイルスにより変更有 | 0回 |
| 上期 | 19,400,000 | 17,621,720 | 90.8% | 12,600,000 | 12,847,192 | 102.0% | 200,000 | 295,101 | 147.6% | 32,200,000 | 30,764,013 | 95.5% | 上期 | 6. ハイキング | 9回 | 新型コロナウイルスにより変更有 | 1回 |
| 10月 | 3,700,000 | 3,164,710 | 85.5% | 2,200,000 | 2,092,315 | 95.1% | 40,000 | 45,365 | 113.4% | 5,940,000 | 5,302,390 | 89.3% | 10月 | 7. 寄付金 | | | |
| 11月 | 3,700,000 | 3,275,678 | 88.5% | 2,200,000 | 2,093,513 | 95.2% | 40,000 | 57,431 | 143.6% | 5,940,000 | 5,426,622 | 91.4% | 11月 | | | | |
| 12月 | 3,700,000 | 2,939,969 | 79.5% | 2,200,000 | 2,099,216 | 95.4% | 30,000 | 17,941 | 59.8% | 5,930,000 | 5,057,126 | 85.3% | 12月 | | | | |
| 1月 | 3,800,000 | 2,783,328 | 73.2% | 2,100,000 | 1,907,563 | 90.8% | 30,000 | 61,987 | 206.6% | 5,930,000 | 4,752,878 | 80.1% | 1月 | | | | |
| 2月 | 3,800,000 | 2,588,842 | 68.1% | 2,100,000 | 1,882,119 | 89.6% | 30,000 | 40,199 | 134.0% | 5,930,000 | 4,511,160 | 76.1% | 2月 | | | | |
| 3月 | 4,000,000 | 3,151,140 | 78.8% | 2,200,000 | 2,143,644 | 97.4% | 40,000 | 28,165 | 70.4% | 6,240,000 | 5,322,949 | 85.3% | 3月 | | | | |
| 下期 | 22,700,000 | 17,903,667 | 78.9% | 13,000,000 | 12,218,370 | 94.0% | 210,000 | 251,088 | 119.6% | 35,910,000 | 30,373,125 | 84.6% | 下期 | | | | |
| 事業所合計 | 42,100,000 | 35,525,387 | 84.4% | 25,600,000 | 25,065,562 | 97.9% | 410,000 | 546,189 | 133.2% | 68,110,000 | 61,137,138 | 89.8% | 事業所合計 | | | | |
| 令和2年度実績 | 32,885,669 | 対前年 | 108.03% | 23,678,240 | 対前年 | 105.9% | 266,432 | 対前年 | 205.0% | 56,830,341 | 対前年 | 107.6% | 令和2年 | | | | |
| 内 | 1 売上実績 ③半期 ①対前年比 108.03% 上期 90.8% ②対目標達成 84.4% 下期 78.9% ④ 令和3年度の上期稼働率は57.1%、下期稼働率は59.3%、令和3年度通しての稼働率は58.2%となった。新型コロナウイルス第4波、5波、6波に緊急事態宣言、まん延防止等重点措置など厳しい状況であったが令和2年度の年間稼働率53.4%と比べて稼働率の増加となった。 ⑤ 今年度の新規登録者数は23名であったが、ご逝去や利用中止なども多く、利用者の登録者数は今期末で50余名、平均利用者数は13.4名となった。目標の登録者65名、平均利用者17名は達成できず。 | | | 1 売上実績 ③半期 ①対前年比 105.9% 上期 102.0% ②対目標達成 97.9% 下期 94.0% ④ 上期は、利用者のご利用が安定していたが下期は目標達成に至らなかった。認定調査の判定が厳し中で認定期間もかなり長くなってきた(最長3年)。 ⑤ 要支援者の利用多く、認定後もなかなか介護度が上がらない状態、区変をかけたも支援のままという利用者も数名いた。 ⑥ 自費での利用者は単発での依頼、家族と同居の方等介護保険の移行を考えて出来る限り対応した。 | | | 1 売上実績 ③半期 ①対前年比 205.0% 上期 147.6% ②対目標達成 133.2% 下期 119.6% ④ 利用者数が2名、入院と事業所変更のため終了した。介護保険の利用者が1名重度介護訪問の利用となった。新規依頼もなかったが利用者確保は今後の課題とする。 | | | 1 売上実績 ③半期 ①対前年比 107.6% 上期 95.5% ②対目標達成 89.8% 下期 84.6% ④ 新型コロナウイルスの影響は、今年度も続き、特に通所の回復が遅れた。訪問は、対前年度105.9%をキープできたのは救いであったが、通所の補完とまでは行かなかった。 ⑤ 通所は、目標達成の計画を立て施設長スタッフ丸となり目標達成感を味わってもらいたい。訪問はヘルパーの確保が最重要点である。 | | | 総括 一昨年度からの「新型コロナウイルス」の影響を受け、「蔓延防止等重点措置」により今年度は「サロン」「家族会」が度々中断となり、「カラオケ」は中止することとなりました。その中でも新規参加者を募った結果、7月以降新しい参加者を見る事ができました。話題は引き続き新型コロナウイルスにまつわる話を中心となる事が多いですが、それ以外の身近な体験談をお話し下さる方も多く、それぞれが今後の生活の糧として生かせる会となりました。 サロンは、今年度も山岸副会長の「今日は何の日？」から話が始められます。次に桜田会長に「文字は語る」を時には学び、スタートします。「3時のおやつ」は三密に十分注意しながら、お茶やお菓子をいただきながら、楽しい話に花が咲きます。「懐かしい昔の思い出話」を語る方、「近況報告」をされる方などが盛り上がりサロンの目的を達成することが出来ました。 家族会は、「今日は何の日？」から話が始めました。山岸副会長による「健康にまつわる新聞記事」等々を勉強しながら、皆さんがそれぞれにまつわる体験談や情報をお話しください。話題が広がり毎回和やかに開催することが出来ました。 ちょっとしたお手伝いは、「庭の草取り」が3回、「植木の移動」が1回、「突っ張り棒の取り付け」が1回の、計5回のお手伝いをさせて頂きました。「ちょっとしたお手伝い」は、超高齢化が進む中で、高齢者、障害者のQOL(「よりよく生きる」という「生活の質」)を支援する大切な活動であり、活動の輪を広げることが重要である。 災害地への支援及び支援金は、3年度の実施はありませんでした。今年も自然災害が多く発生しました。コロナ過の中、又、資金不足の中では、どの災害地に支援するか対応出来ませんでした。 カラオケは、新型コロナウイルスの蔓延を考慮し、開催しませんでした。 ハイキングは、カラオケが開催できない代わりに企画しましたが、やはりコロナの影響で中止することが多く、「小平ふるさと村とあじさい公園」の見学のみ1回実施することができました。 こまくさの会「サロン・家族会・カラオケ」はスタッフ一同努力を重ねてまいります。「ちょっとしたお手伝い」と「ハイキング」は近隣の高齢者の生活支援、健康維持の目的を果たすため、今後も継続して取り組んでまいります。 運営資金は 会の運営の充実のために必要不可欠ですが、令和3年度は、コロナの影響もあり寄付者38名139,000円でした。こまくさの会を充実運営するためには、年間30万円以上の資金が必要であり、資金不足にならないため、引き続き寄付者年間100名以上の達成に向け取り組むことが必要である。 | | | | |
| | 2 新規利用者獲得に向けた取り組みは ① 実績配布など居宅介護事業所への訪問をおこなったが、各事業所ではリモートワークや実績投函用のポストを用意するなど対策を避ける動きが継続していた。年度当初1名の利用登録から年度末には7名の利用者を登録でき、営業努力が結果に繋がっていると考えられる。 ② 新パンフレットが完成となり、居宅介護支援事業所への送付をおこなった。オーリーブ通信も営業のツールとして、実績と合わせて郵送をおこなっている。ホームページに合せては施設紹介や職員募集のページなどへアクセスが集まっているなど、オーリーブに関心を持ってくださる方々への情報提供の機会に繋がっていると考えられる。 ③ 他事業所のコロナ感染による施設の一時閉鎖などもあり、再利用されるご利用者などもあった。長期利用を中止されている利用者の担当ケアマネより空枠の確認や施設の様子なども問い合わせが入ってきた。重要事項説明書には「1か月以上休まれた場合はサービスの終了」と記載しているが再開可能な旨を伝えている。 | | | 2. 目標達成に向けた取組み ① 新型コロナウイルスの感染予防においてはサービス提供責任者・ヘルパー共に万全の取組を行ってきた。訪問時の手洗いやうがいは日常でも徹底して行い、消毒液やマスク配布は毎日行ってきた。 ② 新規ヘルパーの採用については知り合いの方への声掛け等機会があれば動きかけたが今年度は一人も登録が出来なかった。掲示物の毎月変更等ヘルパー採用については今後も課題が多い。 ③ 利用者が年々高齢になり、今までとは違った対応も出てきているので難しいことも増えた。 ④ ヘルパーの介護福祉士の取得が色々な面で難しく高齢化もしてきているがヘルプの質は全く変わらず問題なく行ってきた。 ⑤ 新規依頼の生活援助は午前中の希望多く調整しづらい現状である。サ責が内容等を確認しヘルパーを同行するが出来るまで時間を要しサ責が対応しヘルパーに移行する時もある。色々な面からサ責のヘルプに費やす時間の調整が難しい。 ⑥ 日頃よりケアマネジャーとの関りを大事にし、利用者、ヘルパーにも耳を傾け常に寄り添う気持ちを大切にし信頼関係を築いて行く事が最も必要と感じる。 | | | 2 課題 ① ヘルパー不足に加え障害者の方に対応出来るヘルパーが少なく研修の育成等は引き続き検討していく事とする。 ② 重度訪問介護の利用を実施したが介護保険で行う内容とは違うケアが多いため対応が難しかった。 ③ ガイドヘルパーの(視覚障害者移動介護)の資格保持者は3名いるが、同行支援と共に利用者の新規依頼はなかった。 | | | 2. 問題点 ① 今年度も新型コロナ過で、更なる感染予防に取り組んだ結果、ご利用者、ご家族、職員スタッフ感染者ゼロを達成できた。しかし、2年以上の長きにわたるコロナ過は変わらず緊急事態制限も繰り返し出され、我慢も限界に来ているのが実情である。一刻も早い収束を願いつつ業績回復に向かって取り組んで行くこと、オーリーブも今一度原点に帰り乗り切ることが切望する。 ② 目標達成に向けた創意工夫が足らなかった。コロナ過の中で難しい運営を強いられたが目標達成の意識を持ち、毎月末締切後月責達成状況を把握し反省し次月に向けた計画を立て次月取組むことが必要であった。達成感を味わうことで新たな挑戦が始まりモチベーションが生まれる。 ③ 職員・スタッフの高齢化。通所は、若返りができたようである。訪問は、ヘルパーの高齢化が進んでおり、喫緊の課題である。いつまでも何名採用する目標を掲げあらゆる取り組みが必要であった。 ④ 職員・スタッフのスキルアップを図ることも急務であり研修の充実を図らなければならなかったが、コロナ禍で十分な対応が出来なかった。次年度はリモート研修も考慮する必要がある。 ⑤ 通所と訪問との連携・共通の認識を醸成する取組が不十分であった。上期3回、下期1回幹部打合せを行ったが、コロナ過で集合することが困難であった。次年度はリモート会議も考慮する必要がある。 ⑥ 地域活動への積極参加。昨年の介護保険法改定の中で地域との連携が必要なが盛り込まれた。今年も櫻田顧問一人に頼った1年であった。コロナ過で活動自粛もあった。オーリーブは母体がNPOであり、地域の一員として、各活動(小平西ネット、ユネスコ、自治会、老人会、商工会等)に積極参加し、信頼され選ばれるオーリーブになるためにも必要である。 ⑦ ボランティアの確保。、ボランティアの方々も高齢化が進み活動自粛の中運動不足により、歩行困難や持病が悪化し活動できない方も増えて来ています。登録数も26名(ボランティア保険加入者)になりました。ボランティアは、オーリーブの宝。ボランティアの方もオーリーブの支援が運動にもなり生きがいとなり元気を保つことが出来るのです。ボランティアの方への支援を行いながら常に心がけて増やしていかなければならない | | | | | | | |
| 容 | 3.課題 ① 感染症予防への取り組みが実り、今期も職員やボランティア、ご利用者様から感染者を出すことなく事業を継続することが出来た。 ② 介護福祉士の資格を持つ非正規雇用の常勤女性職員を獲得することが出来た。主任相談員への教育も進んでいる。 ③ 感染症予防のためオーリーブ主催の研修実施回数は少なかったが、オンラインの外部研修についての周知、参加呼びかけを行った。 ④ 信頼関係構築も進んでおり、ご愛顧いただいているケアマネージャーもいらっしゃる。さらなる広がりを目指す。 ⑤ 直接対面について、実績配布は専用ポストの設置のため難しい場合が多い。サービス担当者会議などが開催される際は、書面を用いた照会などで済ませず現地へ赴き、会議の終了まで現場に残りご利用者様ご家族とのコミュニケーションを取っている。 ⑥ 「オーリーブといえば」という独自色と宣伝について。今期も継続して男性が6割を超えている。ケアマネや利用者様、ご家族様からも「食事がおいしい」と度々聞いており、食事のおいしさもオーリーブの売りとなっているが、今期より現行の昼食配食サービスが値上げとなった為、検討を行っている。 | | | | | | | | | | | | | | | | |